

総合計画審議会 第3回総合部会 記録

- 1 日時 平成23年2月10日(木) 13:30~15:40
- 2 場所 市役所議会会議室
- 3 出席者 福田委員(部会長)、永山委員(副部会長)、山田委員、池田委員、岡野委員、竹内委員、栗原委員、吉田委員
事務局 総合政策室 森室長、向井企画員、木藤主任、梶井主事
尾坂副市長、福井教育長、山崎総務部長、山根産業部長、岡本市民生活部長、早田建設部長、池田教育次長、深田部長
平田市民参画課長、塚根子ども家庭課長
富士通総研 長谷川

4 内容

- (1) 開会
- (2) あいさつ 福田部会長
- (3) 内容

●修正内容を説明 事務局

(記録省略)

13:47

池田委員) 7ページ。限られた職員数の中で、市民目線で、もうちょっといい表現がないか。

事務局) 市民目線というより、職員の組織体制について記載している。最小の人数で最大の効果を上げたいという思い。

永山委員) 少ないという意味は、本来必要な職員数を割り込んでいるという意味を含むものか。

事務局) 意味としては、全体の組織として少ない人数で最大の効果を図りたいという意味。

永山委員) 大学では、10年で職員が半数になった。おそらく維持できない。数が少なくなりすぎて困っているのか。

事務局) 合併時に513人いた職員を10年で79人減らし、平成26年に434人にする計画をしている。今度の4月、5年間で434人に到達する。434人が多いのか、少ないのかを検証する必要がある、行政改革の中で検討していく。表現は、今の現状で、限られたという意味。

岡野委員) 説明されたらわかるけど、市民が見たときにわかりやすい言葉にしてはどうか。

山田委員) 増やすこともできない職員数の中で、がんばっていこうという意味だと思うが。

事務局) 増やすことも是となる表現は避けたいため、こういう表現になった。

山田委員) 行政経営の3ページ。新しい公共の担い手の育成に、子どもが入ったことはいが、「子ども」が知識・経験を地域に還元できる～にかかる。文章を分けてはどうか。また、基本構想編の9ページ。訪れた→訪れ、に修正を。

永山委員) 施策3の成果指標は、「窓口対応に満足しているか」の窓口行政の指標だけ。職員の全体の能力を図る指標がないのか。また、16ページ、17ページ。「双方型の情報提供を充実させる」に、情報公開が触れられていないため載せるべきでは。「広報」と「情報公開」と「個人情報管理」で成り立っていると思うが、情報公開がない。「広報」は行政が積極的に情報を出すこと、「情報公開」は、行政が積極的に伝えないことを要求して出す制度。

事務局) 検討する。先ほどの職員能力の指標については、何かあれば教えてほしい。

山田委員) 窓口対応もアンケートをとるのか。

事務局) 市政のありかた全体のアンケートの中に入れる。

池田委員) 電話対応もどうか。担当にかわります、といわれる。

事務局) アンケートを検討する中で考えていきたい。

14:05

● 成果指標の説明 事務局

福田委員) 情報公開の部分が入っていないとの意見があった。双方向型が一番目にあってくるのか。入るのか。

永山委員) オンブズマンが全国的にランク付けをやっている。対応されたほうがよいと思う。前向きに動きをつけていくべきだと思う。

事務局) 現在、情報公開条例があるので、随時情報公開の手続きに従い公開している。

山田委員) 経常収支比率は大体どのくらいになっていけばよいのか。

事務局) 12ページ。経常収支比率を95にとわれている。ちなみに指標一覧表の全国類似団体の順位。何位になるのかは参考であり、目標ではないので、成果指標から落とす。

山田委員) 適正な率は何パーセントか。

事務局) 90を切ること。

事務局) 昔は75と言われていたが。現在は創のような団体はほんのわずか。

栗原委員) 情報漏えい件数。当然ゼロ。目標に挙げる必要があるのか。

事務局) 削除を検討する。

池田委員) 現状と目標が大きく差があるものが気になる。行政経営の p4 公募委員が参加している審議会等の割合で 9.8%が 50%に上げられるものだったら、今まで何だったのということになる。むやみに目標値に掲げることもどうか。懐疑的に思う。意味のある目標値でない。

栗原委員) 設定根拠は？

事務局) 61の委員会があり、公募委員がある会議が1割に満たない状況。5割に引き上げたいという考え。

池田委員) 今まで公募をあまりしていなかったということか。

事務局) はい、そういうことです。

事務局) 審議会のなかには専門性を伴うものがあるため、なかなか公募ということにはならない現状があるが、目標として掲げたい。

竹内委員) 指標に「市税が効果的・効率的に使われていると思う市民の割合」とあるが“市税”という表現が分かりにくい、市民として、事業が市税、県税なのかわからないので。税金でも良いのでは。

事務局) 市税と書いているが。広くとらえていただけたら。市としては税金と書くと全てになってしまうので。

竹内委員) いいです。

福田部会長) 市民アンケート調査で把握するので、市税という表現でもとめたいところ。

事務局) 市税にとらわれずに、税が効果的に、「倉吉市では市税が・・・」という表現は。

事務局) アンケートを聞くときに内容を検討したい。指標の名称は別として考えたい。

山田委員) 成果指標にアンケートがいっぱい出てくるが大変では。

事務局) 市民アンケートは毎年、定期的にやっていきたい。これまでもやってきた。

山田委員) これまでやってきたものを校正するのか。

事務局) 新たに付け加えたり、新規に設定してやる予定。

永山委員) 市報くらよしを見ている市民の割合。どういうふう配布しているのか。

事務局) アンケートで市報やホームページを見ている人は、54.4%。自治公民館を通じて配布をお願いしている。

池田委員) 自治公民館の加入者には配っている。

永山委員) 自治会に加入しない大学の学生が見れないという課題があった。大学にまとめて送ってもらうようにした。倉吉でも同じでは。事業所単位で配るとか。

福田部会長) 病院、公共施設、銀行などにある程度配布され、市報を見ることができるようになっている。

山田委員) 図書館にも置いてあるし、学校にも届けていただいているので、見たい学生は

見ていると思う。

事務局) 配布とは別に希望される人には実費でお送りしている。

永山委員) 町内会がすべての人をカバーできなくなっている。鳥取では町内会加入率は下がってきている。倉吉ではどうか。

岡野委員) マンション、アパートは加入がなく困る。

福田部会長) 入らない人がいる。ゴミの問題とかにも影響する課題。

永山委員) 町内会で配るのがベースだと思うが、100%配るにはどうしたらいいか。町内会には入らないけど、市民であることは間違いない。

岡野委員) 町内の区費で運営しているため、他の住民にまでは対応できない。

永山委員) 市報配布に補助はでているのか。

事務局) 出している。

事務局) 100%市民の方に配布するのは難しい課題。

岡野委員) 公共のところには大体置いてある。気持ちある人はそこで見てもらう。見ることができるところに行けば見られる。

永山委員) 鳥取市の町内会は60%。倉吉はもっと高いと思うが。

事務局) 全体で85%の加入率。

永山委員) ならば、市報がある場所をもっと周知すべきである。

栗原委員) 市税の収納率。考えれば目標値は100%が当たり前。93%の目標は5年間で1%としている、根拠を知りたい。少なすぎるのでは。

事務局) 現状が92%。平成18年度92.6あったのが下がってきている現状。1%上げるとはかなりの大変な状況。22年度、91.5、23年度91.8を想定しているがもっと下がるだろう。債権回収室を設置して職員を増員してでも歯止めをかけるという計画。

栗原委員) 残り8%の回収率はどうか。

事務局) どうしてもとれないのは不能欠損という流れになってしまう。

永山委員) 広域連合がやっているのではないのか。

事務局) 滞納の分をやっている。最初はよかったが、困難な事案がつみ残ってしまっているのが状況。

栗原委員) 残り8%の回収率はどうか。

事務局) 3割切れるくらいの収納率である。

山田委員) 1%で何人くらいになるのか。

山崎委員) 人は資料がないが金額ベースで、6千万。8%で4億8千万。

山田委員) 財政調整基金のところ。9億が20億に目標があるのはなにか計画があるのか。

事務局) 市長の思いもある。20億は積立てたい。この時勢の中では9億では恐ろしい状

況であると判断している。当面20億は確保していかないといざというときに対応できないと考えている。20億は最低でもという気持ちである。

14:35

・専門部会の審議結果について事務局説明。

(記録省略)

14:58

福田部会長) 品格について、部会での議論はどうであったか。

池田委員) 品格は「人」に使い言葉であるという議論があり「まち」に使うイメージがないと。事務局修正案の“魅力と格調”でいいのではないかと思う。

永山委員) 鳥取市で市のイメージをどう思うかとの問のアンケートをされた結果、大都市、中都市、都市ではなかった。出てきた答えは、小さいけど品格が高いというもの。昔から住んでいる人は品格があると考えている。品格が高い、冷たい感じもする。キャッチは日常的な言葉で表現されてはどうか。

吉田委員) 品格よりは格調の方がいい感じがする。

永山委員) 品格は、武家屋敷が並んでいるまちに使いそうな感じ。

竹内委員) 品格が人につくのか、街につくのかわからないが、人が集まってまち。品格はイメージしにくい。お高い感じがする。格調もどうかと思う。魅力でいいのでは。

池田委員) 品格はやめて、「魅力と拡張」が良い。

福田部会長) 品格を「魅力と格調」に変えてということ。

福田部会長) 次に「共創」はどういう議論であったか。

事務局) 造語で“ともにつくる”ということ。きょうそうという音も。

池田委員) 造語はわかりにくい。市長の考えか。

事務局) そうではない。

竹内委員) 字を読むとわかるので良いのでは。

吉田委員) 字を見ないときょうそう(競争)する。競い合いになる。

山田委員) 共に創るでいいのかな。全体としてスローガンとして長い。短くできないか。

永山委員) 共は協でもいいかもしれない。英語にしたら分割しての意味が分かる。

(事務局で英語表記を調査)

事務局) 英語では、Co-Creation (Co=Company)

事務局) 共創はわかりにくい。何って感じがする。ともにつくるまち。としたほうがわかりかくなる。

山田委員) みんなでつくるまち、くらいでいいのでは。

吉田委員) 愛着と誇り、もっと好きになる、がだぶっている。未来いきいき、もっと好きになる倉吉では。

事務局) 総合計画なので、もっと好きになるだけで終わるのも・・・

福田部会長) みんなでつくるまち、みんなでつくる倉吉ではどうか。

吉田委員) 10次総のは長くて入ってこない。

山田委員) 「愛着と誇り 未来いきいき みんなでつくる倉吉」ではどうか。サブタイトルなしでよい。全てのゴロが入ってくる

福田部会長) では、これが総合部会の結論ということで。

福田部会長) “暮らしよし”を感じにするか、ひらがなか。

他委員) ひらがなで。“くらしよし”ふるさとビジョン

福田部会長) 戦略プロジェクトのテーマ 「愛着と誇りを持つ定住の促進」についてはどうか。

事務局) 戦略プロジェクトは人生のサイクルの中で、一番活力のあると思われる点に特化して検討しているところで、まず愛着と誇りを持って住んでいただくこと、その思いが言葉としてそとに出て行ったりする、住んでいる人がそうになっていくイメージで設計しているので、テーマは原案のとおりとしていただきたい。

福田部会長) 特に異論なければ、原案とします。

岡野委員) 基本目標1の施策2取組方針に、農商工連携、水はいらないのか。

事務局) 現在、農商工連携という言い方ですべてが動いている。取り立てて水を入れなくて良いと考えている。含まれるとして進められている。

永山委員) 総合計画の進行としてマニフェストはある意味、工程表である考えるが、目標年度の間年度で評価していくのか。

事務局) 検証は毎年アンケート等で、現状を把握しながら、途中でも、基本計画はその都度変えていくという判断。目標の見直しはあつてしかるべきというスタンスをもっている。

事務局) 基本構想にもあるように毎年見直すローリングを書いている。その都度、成果を見ながら更新していく考え。

永山委員) 基本的なもので、工程表ではないということだね。

事務局) そういう考えです。

岡野委員) 地域計画に関することだが行政の体制として、定期的に市民対話集会等を開催して・・・とあるがあるのか。今まで地域計画をしなくなった。地区審は地域計画を作って地域の取組を進めてきた。助成等も考えてのことか。

事務局) 地域が地域計画をつくることを否定するものではない。むしろ独自での取組を応援していきたい。

岡野委員) 元気の出るまちづくり交付金は地域計画がなくてもでるとの説明であったが。

事務局) 計画がある、ないは関係ない。地域でのまちづくりの取組に対して交付していくものであると考えている。

岡野委員) 協働で行う事業については地域からの提案を受け・・・とあるが、地域から行政に申し込むという考えでいいのか。地元の方から声をかけるということか。

事務局) はい。すべてがそうではないと考えているが地域から何らかの声が上がらないといけないのかなとも考えている。

(全体を通して)

池田委員) 基本目標施策2. 身体障害者の、今後の取組。障害のある子どもについて、関係機関、地区の医療機関や今ある中部の医療機関を利用しながら支援体制が作れたらと思う。地区の医療機関を始め、を入れてほしい。

さらに充実した施策8. 救急医療体制の充実では、大きな病院だけではなく医師の充実、開業医による夜間対応が必要だと感じている。中部ふるさと広域連合が夜間休日診療の窓口となっていることから、どこかに入らないか。公的医療機関だけではいけないと思う。休日診療所を充実するには広域連合と連携してやっていく必要がある。夜間、休日診療を充実させるためには。

事務局) 検討、修正します。

事務局) 基本目標2 施策2 の取組方針の4番目、最後の行。「地区の医療機関をはじめ」を挿入する。施策8 の取組方針の2番目も「鳥取県中部ふるさと広域連合とともに」の挿入を検討します。

池田委員) 今の地域の医療機関が参加しないとできないと思う。

永山委員) 男女共同参画の指標が男女の比率。幹部職員の比率。民間の企業、客観的な数字を重視してほしい。

竹内委員) 同意見である。男女共同参画プランには細かい数字があると聞いたが。

永山委員) 指標としては、アンケートよりもそっちのほうが重要ではと思うが。

事務局) 全体として個別計画で指標をとったりしているので、そこで抑えているという考えをしており総合計画自体では入れていない。

永山委員) 満足度調査よりも客観的な数字のほうがよいという考え方をしている。

竹内委員) 部会でも同じ趣旨で質問した。

山田委員) 男女共同参画にたくさん指標があると思う。担当課の方でその中で選んで入れてはどうか、それをポイントとして押さえてもいいのではないか。

岩美町で子育てに関する調査しているが、女性が子どもを産んで、職場にいる人、保育

所が多く7割いた。労働関係と保育がセット。いろいろ重ねてみる必要がある。分化して指標化していくことは難しいことだと思うが。

男女共同参画プランで、中核となる指標を聞いて、置いておくとよい。

事務局) わかりました。担当課と調整します。

15:37

福田部会長) 次に協議事項(2)答申案について

事務局説明。

山田委員) 市民起点というのは、行政的に言い方があるのかな。市民の立場に立ったとかではどうか。

永山委員) 専門、業界用語は避けましょう。

福田部会長) 事務局と会長にまかせて決めてください。

福田部会長) 以上で終了とする。本日の修正案を含めて最終案とさせていただきたい。

15:40